研究・調査報告書

報告書番号	担当
３１２	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門

題名（原題／訳）

Alcohol consumption, mild cognitive impairment, and progression to dementia.

アルコール摂取、軽度な認知機能障害と認知症への進行

執筆者

Solfrizzi V, D'Introno A, Colacicco AM, Capurso C, Del Parigi A, Baldassarre G, Scapicchio P, Scafato E, Amodio M, Capurso A, Panza F; Italian Longitudinal Study on Aging Working Group.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Neurology. 2007 May 22;68(21):1790-9.

キーワード

アルコール、認知機能、認知症

要　旨

背景：

アルコールによる軽度な認知機能障害への影響と軽度の認知障害から認知症への進行への影響についての検討を行った。

方法：

1445名の認知機能の障害のない人で軽度の認知機能の障害の発生率及び121名の軽度の認知機能障害者の認知症への進行の割合について検討した。年齢は 65 歳から 84 歳までの Italian Longitudinal Study on Aging への参加を対象とした。平均追跡期間は3.5年であった。アルコール消費量は調査前に確認した。認知症と軽度の認知機能障害は現在の臨床診断基準を用いた。

結果：

軽度の認知機能障害者では毎日アルコール 15g 以下の摂取量では多量飲酒者と比べて認知症になりにくかった(HR=0.15、95%CI=0.03-0.78)。さらに軽度の認知機能障害の適量飲酒者で、ワインを一日アルコール換算で 15g 以下のものは認知症になりにくかった(HR=0.15、95%CI=0.03-0.77)。軽度の認知機能障害者の大量飲酒(一日アルコール 15g 以上)者の認知症への進展は大量飲酒者と同様であった。認知機能正常者が軽度の認知機能障害への進展は飲酒量と関係しなかった。

結論：

軽度の認知機能障害者ではアルコールやワインが一日 15g 以下では、認知症への進行が減少すると思われる。